

令和7年度岩倉市行政評価委員会 行政評価結果報告書

令和7年度に開催した岩倉市行政評価委員会において、令和6年度実施施策のうち、42単位施策の評価を行った。

本委員会では、施策担当課長が施策や取組の内容、指標の実績、分析状況を説明し、質疑を踏まえて、委員全員が評価し、本委員会としての評価を取りまとめたものである。その結果の概要について報告する。

1. 総括

当委員会における評価は、2か年をかけて第5次岩倉市総合計画の全86の施策評価を行うサイクルで実施しており、令和7年度は令和6年度に評価を実施しなかった施策について評価を行い、これにより全施策について二回り目の評価を終えることとなった。第5次総合計画の計画期間も中盤に差し掛かり社会情勢等も変化する中で、事業の進捗状況も見据えながら課題等に対応する必要性が高まる中での評価となった。

評価は、取組内容と成果指標のそれぞれの達成度を組み合わせたものであり、全体として評価結果「B 施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる」が過半数を占めるという状況に変化はないものの、ゼロカーボンシティの実現に向けた新たな取組みや、市民・事業者とのマルチパートナーシップによる生物多様性保全活動や環境学習の実施等により、前回評価（令和5年度評価）と比較して11の単位施策の評価が上昇し、うち、5つの単位施策が新たに評価結果「A 施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる」となった。評価が低下した2つの単位施策についてはそれぞれに要因が異なるが、原因の分析を行い状況の改善につながるよう取組を進めていただきたい。

今後に向けては、単位施策ごとの取組内容等について第5次岩倉市総合計画基本施策評価シートに本委員会からの評価やコメントを付したため、各担当課においては、本委員会での評価結果、委員からの質問や意見を踏まえて、記載内容や取組内容の改善に努め、施策を推進してほしい。

2. 評価対象施策

毎年概ね半分の施策について評価する。今年度は、第5次岩倉市総合計画基本目標のうち、第3章、第4章、第5章の一部（15基本施策、42単位施策）を評価対象とし、評価を行った。

3. 評価結果

| | | 評価結果 | | | | | 計 |
|---------|------------------------|-------|-------|-------|------|------|--------|
| | | A | B | C | D | E | |
| 令和5・6年度 | 令和6年度評価 (令和5年度実施施策) | 6 | 24 | 13 | 1 | 0 | 44 |
| | 令和7年度評価 (令和6年度実施施策) | 5 | 28 | 8 | 1 | 0 | 42 |
| | 計 | 11 | 52 | 21 | 2 | 0 | 86 |
| | 構成比 | 12.8% | 60.5% | 24.4% | 2.3% | 0.0% | 100.0% |
| 令和3・4年度 | 令和4年度評価 (令和3年度実施施策) | 1 | 16 | 19 | 0 | 0 | 36 |
| | 令和5年度評価 (令和4年度実施施策) | 1 | 33 | 15 | 1 | 0 | 50 |
| | 計 | 2 | 49 | 34 | 1 | 0 | 86 |
| | 構成比 | 2.3% | 57.0% | 39.5% | 1.2% | 0.0% | 100.0% |

A…施策がめざす将来の姿に向け、順調に進んでいる

B…施策がめざす将来の姿に向け、概ね順調に進んでいる

C…順調とまでは言えず、取組内容に改善・努力が必要

D…取組に一層の努力が必要又は取組及び指標の見直しが必要

E…取組ができておらず、単位・個別施策の見直しの検討も必要

※構成比は小数点第2位を四捨五入

※単位施策ごとの評価結果は「令和7年度行政評価結果（令和6年度実施施策）」のとおり

※詳細については別紙「第5次岩倉市総合計画基本施策評価シート（令和6年度実施施策）」のとおり

4. 実施日時

| 開催日時 | 会場 |
|---------------------|-------------------|
| 令和7年10月7日（火）午後2時から | 市役所7階 第2・3委員会室 |
| 令和7年10月21日（火）午後2時から | |
| 令和7年11月4日（火）午後2時から | |

5. 岩倉市行政評価委員会委員名簿

| | 氏名 | 選出区分 |
|-------|--------|--|
| 委員長 | 千頭 聡 | 識見を有する者 |
| 副委員長 | 小松 尚 | |
| 委員 | 堀井 一宏 | 企業の代表者 労働組合の代表者 市民活動団体の代表者 市民の代表者 |
| | 大橋 秀樹 | |
| | 山中 卓 | |
| | 村上 貴司 | |
| | 三輪 紀光 | |
| | 長坂 菜緒子 | |
| | 服部 正敏 | |
| 吉田 朋恵 | | |

6. 来年度評価に向けた提言

成果指標の実績値が策定時の値から低下したこと等により（Ⅲ）、（Ⅳ）の評価となった施策において、その要因分析や改善策が十分に記載されていないものが散見される。PDCAサイクルにおけるC（評価）からA（改善）への流れが滞りなく進み、行政評価の本来の目的達成により近づくよう、評価シートには具体的な改善策を明記するとともに、成果指標の目標値達成に向けて各事業を推進していただきたい。